

授業科目(ナンバリング)	地域振興論(CB203) (実践的教育科目)			担当教員	原 哲弘 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2単位	開講年次・時期	2年・後期	必修・選択	選択 (コース選択必修)
授業のねらい							アクティブ ラーニング の類型
地方における定住人口や交流人口を増やすこと、地産地消を推進し工場を誘致しようなど叫ばれて久しい。その実現のためには、地域を深く理解した地域マネジメントが必要であり「インバウンド観光」を視野に入れた政策は欠かせない。また地域の豊かさを実感するためには、今までの経済性や合理性だけでなく『生活の質』を見つめることで地域の豊かさを実感する必要がある。講義では地域の『生活の質』をどのように発見するのか、地域マネジメントをどのようにすればいいか理解することを目標としている。なお環境デザイン論と併せて受講するとより深く理解ができる。							⑧⑨⑫
ホスピタリティ を構成する能力	学生の授業における到達目標					評価手段・方法	評価比率
専門力	社会人として必要な地域振興に関する基礎的知識を有し、実践することができる。					・テスト	30%
情報収集、 分析力	授業に沿って現代社会が実施している地域振興を調べ、自らの考えで分析できる手法が身につく。					・テスト	10%
コミュニケーション力							—
協働・課題解決力	社会のさまざまな場面で起きている『観光公害』『観光まちづくり』など課題解決型の観光による地域振興を理解し判断することができる。					・テスト	50%
多様性理解力	都市と地域とを比較することで地域振興となる具体的な理解ができる。					・テスト	10%
出 席						受験要件	
合 計						100%	
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
授業における小テストは講義 5、10、15 回目(3 回の合計 20%) に実施し、小テスト後に直ちに解答と解説を行う。そして最後に定期試験(80%) で評価する。評価基準は、長崎国際大学の成績評価基準に準拠する。							
授 業 の 概 要							
この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分です。建築学、都市計画学の実務経験を基礎として授業を行う。地域学を学ぶことで理解できる内容は全ての土地には与えられた特性があると言う事である。その特性を発見し時代に即した調査・分析の方法で『先人たちの取り組み(知恵)』を継承する必要がある。身近なところでは、学生達の一人ひとりが育った場所(行政区域など)を自ら分析することができるようになる。また更にポートフォリオによるアンケートで双方向型の授業を行い、理解を深めることができる。							
教 科 書 ・ 参 考 書							
教科書：教科書の指定はない。							
参考書：毎回プリントを配布する。また随時、新聞、機関紙などの参考事例を紹介する。							
指定図書：「里山資本主義」著者：藻谷浩介、「里海資本論」著者：井上恭介、「地方消滅」著者：増田寛也							
授業外における学修及び学生に期待すること							
広く観光に関する知識を深め、さまざまな分野の地域振興の中から、自らの進むべき方向を分析する。次に、自らが好きな地域振興分野を調べ研究することで、実社会でさまざまな問題が起きて、自ら考え、企画・立案、実施、運営といった一連の地域振興の流れができる人材となることを期待する。また毎回、配布するプリントを熟読し、その後の授業と関連づけて理解を深めて実践することが望ましい。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	地域振興の視点	地域のあり方が問われ、日本では従来型の地域振興のあり方を見直す段階に来ている。経済性を重視することはもちろん、その他の文化的、社会的な要素を含めて地域の再検討が行われている現状を紹介し、地域振興の重要性を講義する。	事前にシラバスを熟読
2	地方自治について	生活圏が形成される領域が地方自治であり、地域資源の活用、地場産業の振興などを紹介する。また地方財政の構造を解説する。	地域振興の視点を復習
3	地域振興の歴史	全国総合開発計画に始まる上位計画の中で地域発展のプロセスを理解する。その理解を踏まえて次世代の地域振興のあり方を講義する。	地方自治について復習
4	道州制について	市町村の合併と独立性、さらには道州制について講義する。	地域振興の歴史について復習
5	『まち』の成り立ち	地域の風土性と日本人の特性から日本における『まち』の発展を解説する。5回の授業に対して1回の割合で小テストを実施する。(小テスト①回目 1/3)	講義1～4回までの復習、小テスト①の準備
6	『まち』の空間学	まちの空間を説明する。同心円型、多極型、さらに防衛(城下町)型、海浜埋め立て型などの事例を交えて講義する。	『まち』の成り立ちを復習
7	『まち』の魅力発見	自然環境、人文環境、社会環境、それに時間軸を元に地域の魅力について事例などを交えながら、どのように調査し分析するのかを講義する。	『まち』の空間学を復習
8	地域工業・商業の政策と活性化	地域振興の一つに、工場の誘致がある。定住人口の増加や購買力の増加などメリットとゴミや医療・福祉問題などのデメリットを交えて講義する	『まち』の魅力発見を復習
9	地域農林水産業の政策と活性化	第1次産業の後継者不足と高齢化、更には地球温暖化などの地球規模での産業の有り方を考える。特に観光としての6次産業への取り組みを解説する。	地域の工業・商業を復習
10	協働のまちづくり	単体だけの自治振興は、次世代を見据えた時には長続きしない。やはり周辺市町村や周辺経済界との協働による地域づくりの重要性を講義する。(小テスト②回目 2/3)	講義5～9回目までを復習小テスト②の準備
11	地域金融について	流通の新しい捉え方として『地域通貨』の可能性や『フェアトレード』の取り組みなどグローバルな地域金融を解説する。	協働のまちづくりを復習
12	空間経済学	都市の発展を経済学的な視点から検証する。同心円型の街の発展、多極型の都市の発展、防災型の都市の発展など。	地域金融について復習
13	地域創造への取り組み	『風子論』による調査と分析を行い、具体的な地域振興策を説明する。自らの育った土地の地域振興策を考え、実践的な活動ができるように講義する。	授業1回目から12回までを復習
14	地域づくりの最新事例	世界から地域を見つめ、再生した街を紹介し、今後の地域振興の模範例を解説する。	地域創造への取り組みを復習
15	全体の振り返りの講義	1回の講義から14回までの講義を振り返り、全体の要約を講義する。(小テスト③回目 3/3)	小テスト③の準備